

大学教育総合センターFD推進部 平成26年度 活動報告書



P1：巻頭言「大学教育再生加速プログラムの採択」	P8：公開授業実施報告
P2：平成26年度重点テーマ	P9：授業改善WG活動報告
P3：研修会・シンポジウム活動報告	P10：学生参加型FD活動報告
P6：FD合宿研修会開催報告	P11：平成26年度FD推進部会開催記録

巻頭言：「大学教育再生加速プログラムの採択」

FD推進部門長 上野誠也

平成26年8月に文部科学省の大学教育再生加速プログラム（テーマⅡ：学修成果の可視化）に本学の申請が採択され、平成26年秋から本事業（以下、AP事業と呼ぶ）が開始された。学修成果の可視化には、学生の成長をデータとして見える化し、それに基づく教育改善を目指すことが要求されている。教員が何を教えたかではなく、学生がどのように成長したかを判断基準として、大学教育の質を保証するものである。FD推進部が重点テーマとして掲げた「教員が教える教育から学生が学ぶ教育へ」と同じ方向性を持つ改革である。

学修成果の可視化に関しては、現在多くの大学で「教学IR(Institutional Research)」として取り組まれ始めている。中にはIR室を設置して専属職員による業務を行っている大学もある。本来IRとは高等教育機関の計画策定や意思決定のために行われる内部の調査分析活動のことを指しているが、教育に関する側面が強い場合は「教学IR」と呼ばれている。教学IRを有効に活用すれば、学生の学びの実態が把握でき、それに従って教育改善を行う教育のPDCAサイクルが循

環することになる。

本プログラムの採択を受けて、FD推進部の活動は大きな影響を受けた。しかし、本来のFD推進部の目指す方向と本プログラムの方向に大きな差はないので、影響というよりは加速を受けたことになる。例えば、年4回発行していたFDニュースレターはAP/FDニュースレターとして秋学期から発行形態を変更し、従来のFD推進活動のみならずAP事業を含めた内容とした。11月に実施したFDシンポジウムも教学IRをテーマに取り上げ、担当職員が参加しやすい形態で実施した。さらに事務担当のサポートが強化され、FD活動が潤滑に進めることができた。

採択されたAP事業は期間が限られているが、大学教育改善は将来も続く活動である。この期間で加速した改革が定着し、どの教員も教学IRを有効に活用した教育改善を常に行える環境が整備されることが理想である。FD推進部は常に情報を発信し、教員の教学IRに対する認識が変わり、PDCAサイクルが正しく循環することを目指している。

平成 26 年度重点テーマ

FD 推進部門長 上野誠也

FD 推進部は、定常的な FD 推進活動を進めて行く上で、年度の重点テーマを定めて、企画・運営を行っている。平成 26 年度初めに定めた重点テーマは 2 テーマあり、それぞれに対して、研修会などを企画し、教員への情報提供を行った。いずれも教育の質を高めることを目的としており、現在、大学教育に様々な方向から問われている課題である。

【重点テーマ 1】(継続) 教育の質保証に向けて

—授業設計と成績評価—

平成 24 年度に教務厚生部会に発足した成績評価ガイドライン検討 WG は、教育の質保証の観点から成績評価ガイドラインの設定を目標に議論を進めた。その結論として、授業設計のレベルから考慮しなければ優秀な学生を育てる教育は無理と判断し、平成 25 年度から「授業設計と成績評価ガイドライン検討 WG」として活動を続けた。その議論の中でループリックによる成績評価の手法を検討する方向性が生まれた。FD 推進部は平成 26 年 3 月の経済学部を始めとした FD ミニシンポジウムを開催し、ループリック導入の説明を行い、教員からの意見を集めた。AP 事業の採択を受けて、当 WG は AP 会議と名称を変更し、具体的な「授業設計と成績評価ガイドライン」の導入の議論を始めた。そして、平成 27 年度に策定、平成 28 年度から導入の方針となった。これを受けて、FD 推進部では平成 27 年度に FD ミニシンポジウムを通じて、各学部等へ導入の説明を行う予定である。

【重点テーマ 2】(新規) 学内組織との連携を持った FD 推進活動

大学の教育改善を進める活動は必ずしも FD 推進部がそのすべてを担っているのではない。学内の他の組織でも教育改善に関する様々な取

り組みを実施しており、研修会の実施や情報提供を行っている。このような学内の他組織と連携を取り、効率よく進めることで新たな教育改善を試みた。さらに、職員の SD 活動との連携を進めた。平成 25 年度には「教職学連携で創るアクティブ・ラーニング」をテーマに FD シンポジウムを開催した。その成果を受けて、アクティブ・ラーニング以外にも連携の効果は生まれるものと考えた。FD 推進部には学生教育改善グループが下部組織として存在している。彼らと連携をとることで教職学の連携による教育改善が実現する。このような背景から、重点テーマに「連携」を取り上げた。具体的には以下の連携を実施した。

- ・情報基盤センターと連携をとり、ICT を活用した教育改善の情報を学内に提供する。
- ・職員の SD 活動と連携をとり、教職学の連携の下で教育改善を行う体制を促進する。

さらに年度初めには計画していなかったが、他大学との連携が平成 26 年度に始まった。近隣の神奈川大学、関東学院大学との 3 大学連携である。この連携は FD のみならず SD の連携が含まれており、当重点テーマの期待するところであった。

平成 27 年度へ向けて

平成 27 年度は授業設計と教育改善ガイドラインの策定が大きな改革として待ち構えている。強制力の無いガイドラインではあるが、全学的に導入する教育に関する共通認識である。このガイドラインは他大学では見られない授業設計から成績評価までを含めた PDCA サイクルを促すものである。教員が全体を理解したうえで導入しなければ効果が表れない内容である。FD ミニシンポジウム等を通して FD 推進部の担当する範囲は重要である。

情報基盤センターとの連携は順調に動き出し、

研修会や合宿での協力が実現した。SD 活動との連携も良好な関係を築いている。3 大学の連携は幅を広げて発展の傾向を示している。残念ながら、学生教育改善グループの活動が停滞気味で

あった。しかし、年度末に加入した新メンバーのやる気は新年度に期待できるものである。平成 26 年度に掲げた連携のテーマは平成 27 年には飛躍的な発展ができると期待している。

平成 26 年度 F D 推進部の活動

研修会・シンポジウム活動報告

1) 初任教員研修会

開催目的：平成 25 年 4 月 2 日から平成 26 年 4 月 1 日までに本学および附属学校に採用された教員を主たる対象とした研修会である。横浜国立大学の教育理念・教育目標などを踏まえて、魅力ある授業を行うための教育改善に取り組むと共に、初任教員が部局を超えて本学への帰属意識を持つきっかけになる場を設けることを目的とした。

研修は例年通り二部の構成とし、第一部では学長をはじめとする 6 名の方にご講演をお願いし、横浜国大の取組を紹介していただいた。第二部は大学教員と附属学校教員とを分けて、前者を FD 推進部が担当した。今年度は情報基盤センターの協力を得て、第二部の会場を情報基盤センターの端末室で実施した。

【第一部】（全体で実施）

開催日時：平成 26 年 4 月 1 日 13:00-14:15

開催場所：本部棟第 1 会議室

参加者数：61 名（うち大学教員 36 名）



初任教員研修会の風景（第 1 部）

プログラム：

大学の概況について・・・ 鈴木邦雄学長
本学の研究について・・・ 國分泰雄理事
本学の教育について・・・ 溝口周二理事
本学の教育研究評価について・・・

山田均副学長

大学職員の役割について・・・ 清水明理事
就業規則等について・・・

山中次男人事・労務課長

【第二部】（大学初任教員対象）

開催日時：平成 26 年 4 月 1 日 14:25-15:50

開催場所：情報基盤センター端末室 A

参加者数：約 35 名

プログラム：

FD とは・・・ 上野誠也 FD 推進部門長
情報セキュリティについて・・・

長谷部勇一情報基盤センター長

情報基盤センターの取り組み・・・

徐 浩源情報基盤センター教授

【第二部】（附属学校初任教員対象）

開催日時：平成 26 年 4 月 1 日 14:25-

開催場所：教育人間科学部会議室

参加者数：25 名

成果と課題：第二部は大学初任教員と附属学校初任教員の 2 グループに分けて実施する方式を今年度も採用した。FD 推進部は大学初任教員のみを対象としたグループを担当し、情報基盤セン

ターの協力によりセンターのサービスを中心に説明をいただいた。例年行っている授業コンサルテーションの勧誘などFD推進部の情報提供は配布資料として紹介した。

情報基盤センターでの講演は各種サービスを紹介する内容だったが、参加者の初任教員には自分のIDをまだ取得していないために、実際に端末からシステムに入って、サービスを体験することができない方が多かった。端末を使うことが効果的であるために、情報基盤センターで対策を検討することが必要となった。

2) TA 研修会

開催目的： 恒例となったTA（ティーチング・アシスタント）の導入教育を実施した。従来は理系と文系と区別を付けていたが、今年度は特に区別せず2回の研修会を実施した。TAの指導は担当教員に任せられているが、受講学生の履修を援助するために必要な考え方をワークショップで経験することを目的とした。

【第1回】

開催日時：平成26年4月15日 16:20-17:40

開催場所：理工学部事務棟第1会議室

参加者数：約70名

【第2回】



グループ・ディスカッションをする参加者
(第1回TA研修会より)

開催日時：平成26年5月27日 16:20-17:40

開催場所：教育人間科学部7号館7-201教室

参加者数：約20名

プログラム：

1. TAの役割と責任
2. TA実践ワークショップ
3. TA経験者からのコメント紹介
4. 質疑応答

成果と課題： TA研修会を今年度も同じ形式で実施した。自由参加型の研修会とし、2回を合せて約90名の参加者があった。ワークショップの内容は、実験・演習担当では実際の実験室で起こる課題を考えさせ、講義・ゼミ担当ではTAの仕事を考えさせる内容とした。

5月に開催した第2回到理系のTAの参加も見られ、理系・文系を区別せずに2回開催した目的は達せられた。TAに必要な意識を異なる観点で議論する研修会とした改善がよかった。しかし、課題として残る点は文系のTAの数に対して、参加者が少ない点である。この点の改善は今後の検討課題として残っている。

3) FD ミニシンポジウム／教務厚生部会 説明会「ループリック導入の検討のために」

開催目的： 教務厚生部会の「授業設計と成績評価ガイドラインWG」がガイドラインの策定を検討する中で、ループリック導入の案を検討していた。この方針に対する教員の意見を集める目的のために、各教授会で説明を行うFDミニシンポジウム形式で説明会を行った。

【経済学部】

開催日時：平成26年3月17日 13:00-13:30

開催場所：経済学部新棟大研究会議室

【理工学部】

開催日時：平成26年4月21日 13:00-13:30

開催場所：理工学部事務棟第1会議室

【経営学部】

開催日時：平成26年5月12日 13:00-13:30

開催場所：経営学部大会議室

【教育人間科学部】

開催日時：平成 26 年 6 月 4 日 14:45-15:15

開催場所：教育人間科学部事務棟大会議室

成果と課題： 教員への周知の意味では FD ミニシンポジウムは効果的である。その形式を使っの説明会であるが、教員からの質問が多数あった。最初に行った経済学部では、質問時間を大幅に延長する事態が生じたので、理工学部以降の開催では質問票を配布して、質問時間内にできなかった質問を提出してもらおう方式を取り入れた。3 学部を併せて 130 件の質問が寄せられた。類似の質問があったので、整理して全体をまとめた回答資料を作成し、教務厚生部会を通じて質問者へ回答した。

4) FD シンポジウム「教学 IR から作りだす FD」

開催目的： FD シンポジウムは外部から講師を呼んで話を聞き、そのテーマについて参加者が互いに議論することを目的としている。今年度は大学教育改革加速プログラムの採択を受けて、テーマに教学 IR を取り入れた。

外部からの講師には、教学 IR に詳しい愛媛大学の山田剛史先生を呼び、ご講演をいただいた。その後、FD 推進部から他大学の教学 IR の事例紹介を行い、参加者によるグループ・ディスカッションを行った。教学 IR は職員の協力が必要であることから、教務・就職関係の職員に参加を呼び掛けた。教員と職員が一体となった議論が展開し、今後の活動に活かせる提案が生まれることを目的とした。

開催日時：平成 26 年 10 月 31 日 13:30-16:00

開催場所：本部棟 3 階大会議室

参加者数：30 名

プログラム：

挨拶 …… 小野康男 大学教育総合センター長
開催趣旨 …… 上野誠也 FD 推進部門長
基調講演「学生の主体的な学びと成長を促す学修成果の可視化」

…… 愛媛大学 教育・学生支援機構
教育企画室 山田剛史氏
事例報告「他大学の教学 IR 事例紹介」

…… 大学教育総合センター FD 推進部
グループ・ディスカッション「教学 IR で創る教育改善」



山田先生による講演



参加者同士のグループディスカッション

成果と課題： 教員・職員が一つのテーブルに座り、教育に関する議論を行った企画は目的通りに達成した。教学 IR は様々な要素があり、大学の方針に従った使い方を正しく理解しなければ、無駄な作業になりかねない。自分達の大学の目指すところはどこか、そのために現状の学生達がどこにいるのか、教職員が自分達の思いこみで行動していないかなど常に考えながら行動することが必要である。どの大学でも教学 IR の活用を始めたばかりである。常に正解があるものではない。手探り状態ではあるが、確実に方向性を見出すことが重要である。教学 IR は FD に大きな変革を及ぼす可能性がある。短時間であったが、議論の中でやるべき課題が見えてきた成果を感じた。

F D 合宿研修会開催報告

開催趣旨と研修会の構成

平成26年度横浜国立大学FD合宿研修会は、平成26年8月28日(木)～8月30日(金)にかけて、マホロバ・マインズ三浦(三浦市南下浦町上宮田3231)にて実施された。FD推進部の本年度の重点テーマに併せて、1日目と2日目は異なるテーマでスケジュールを企画した。

第1日目は「授業設計と成績評価」を中心に構成した。東北大学の串本先生の講演は、成績評価と授業時間外の学修時間を考慮した授業設計をワークシートに記入する作業を各自が行いながら進めるWS形式で進められた。

第2日目は「連携」をテーマに構成した。参加者も、学内の情報基盤センターからの講演者、神奈川大学と関東学院大学からFD関係の教員、さらに本学の学生FDスタッフも加わって、様々な連携による議論を展開した。そして未来の学びの理想像にまで展開して議論を行った。

スケジュール

第1日目(28日)

挨拶・・・大学教育総合センター長
講演1「授業設計と成績評価WGの議論」
・・・FD推進部門長

WS-1「成績評価を後付けしない授業のデザイン」

・・・東北大学 高度教養教育・学生支援機構
串本 剛氏

WS-2「優秀な学生を育てる授業とは」

第2日目(29日)

講演2「FDにおける連携」
・・・FD推進部門長
講演3「情報基盤センターの取組」

・・・情報基盤センター 塩野康德氏

WS-3「連携の強みを活かしたFD活動」

講演4「21世紀型スキル」
・・・FD推進部門長

WS-4「連携で作る未来の大学」

参加者数 22名(教員14名、職員4名、学生2名、神奈川大学教員1名、関東学院大学教員1名)

合宿研修会(1日目)の報告

内海朋子

第一部「教育の質保証に向けてー授業設計と成績評価ー」

講演の部では、「授業設計と成績評価WGの議論」と題して、上野誠也講師から、本学における授業設計と成績評価ガイドライン検討WGの活動についての解説があった。講師によれば、WG立ち上げの背景には、成績評価に偏りが見られる点が挙げられる。原因は、教員により評価の基準が異なることに求められると考えられるが、そのために優秀な学生に高い成績評価を与えるという大学における教育の質の保証が欠如するという問題が生じている。すなわち、優が多ければ、真に優秀な学生が伸びず、創造性を育てることができず、逆に不可が多ければ学生の自主性が欠如するという問題が生じる。そこで、WGは、他大学の状況を分析した結果、秀・優の割合を設定することは望ましくなく、授業設計が重要であるとの結論に達した。今後の課題としては、WG内では、①授業時間外の学習を促す具体的な授業デザインを行う、②学生の自主的な学修を正しく評価する方法を確立する、という2点が挙げられている。

以上の報告に対して、「不可を出さない授業」も学生のやる気をそぐのではないか、同じ不可でも、「そもそも授業に参加しないために不可になった場合」と「勉強しなかったため不可になった」場合を区別すべきではないか等の指摘がなされた。

後半は、参加者がいくつかのグループに分かれ、授業評価のためのディスカッションを行った。まず、教育評価や教育実態の過程を研究している串本剛講師(東北大学)による、「成績評価を後付けしない授業のデザイン」授業設計の方法について

の講演があった。講師によれば、授業設計を通じて、学生は、教員から期待されること、期待されることを明確化し、必要な学習量を調整することが必要であること、教員は、学生に教育観を伝え、不幸な出会いを回避する、授業設計を具体化することにより、実施を容易にし、改善を促すことが可能となる。そのうえで、講師から、授業の目標、成績評価方法、授業の内容の順で設計することを



串本先生による講演

考える提案がなされた。

次に、参加者は、グループごとに、自己のシラバスを点検し、学習の到達目標を3つ挙げ、それぞれを知識・能力・態度のいずれの取得を目標としているかについて、グループワークを行った。その際出席点の扱いについて、例えば出席はしているが期末試験は成績が悪い学生と、出席していないが成績のよい学生がおり、授業に対する積極性として成績を評価するのは妥当なのかという質問があった。これに対し、講師から出席点を評価するのは適切ではない授業があるとの返答があった。また、大人数の講義を担当する教員からは、複数の観点を持ち込んでの成績評価についての困難性の指摘があった。

最後に、参加者は、グループごとに授業評価に関する様々なアイデアを出して意見交換を行った。

合宿研修会（2日目）の報告

上野誠也

第二部「連携で進める教育改善」

様々な形の連携があることを認識し、その強み

を活かした理想の大学を創り上げる議論を行うことを目的として企画であった。

まずは現状の連携として情報基盤センターの塩野康徳氏にセンターの取り組みについてご講演いただいた。現在のFD推進活動にICTは必要不可欠な存在になっている。本学にある授業支援システム(LMS)をうまく活用することで、いつでもどこでも授業準備が可能となり、準備時間の削減につながる。大切なことはシステムの存在をよく理解することで、塩野氏の言葉を借りれば「まずは使ってみよう」が改善の第一歩だと感じた。午前中のWSは、連携の強みを活かしたFD活動の議論を行った。連携と言っても3種類の連携を上げて、議論を進めた。3種類の連携とは、①教職学の連携、②組織間の連携、③大学間の連携である。議論の展開は、連携の強みや弱みを書き出してそこから戦略を考えるSWOT分析を取り入れた。教職学の連携では、それぞれの立場の違いがあるが、学生でも教育改善に熱心な者がいるので、お互いをよく知ることが重要であるという意見が出た。組織間の連携では、ICTの活用が主張され、留学の準備にも使うことが提案された。大学間連携では、首都圏大学の強みを活かし、競合大学との差別化を狙い、共通性のある授業や地域性の授業外活動を企画する提案が発言された。午後の企画は、大学の将来を考えることに重点を置いた。講演では21世紀型スキルが紹介されたが、将来の大学教育へ反映する考え方の説明があった。従来の大学教育では知識の習得に重きが置かれていた。それに対して、今後の大学教育においては、授業時間内では知識の習得方法を学び、



ワークショップの様子

授業時間外に必要な知識を習得し、それらの関係を考え、他人と協調して課題を解決することが望まれている。そのためにネットワークの活用や異文化の理解などが重要な要素として挙げられる。午後のWSでは、理想の学びを描き、それに至る連携を議論した。各自の理想像を述べ合い、自由な議論が展開した。その中で、社会的能力と学問的専門性の2軸を伸ばす学びに注目した班があった。他人の考えを聞くことは自分の考えを伸ばすことに有意義であることを実感した。



参加者記念撮影

公開授業実施報告

今年度は、春学期および秋学期に下記の公開授業が開催された。公開授業は、ベストティーチャー賞を受賞された先生方を中心に、授業の様子を他の教員に公開するのが目的である。授業後に、担当教員を含めて参加者で意見交換を行う時間を設け、授業に対する考え方などの意見交換会も実施されている。

・春学期の講義名と担当者、実施日時(4回)

- ① 「化学 EP 実験 1 - 導電性高分子の電解合成と物性評価」 跡部 真人教授
7月3日(木) 2限
- ② 「歴史文化概論」 松原 宏之准教授
7月3日(木) 3限
- ③ 「ファイナンス」 鈴木 雅貴准教授
7月9日(水) 1限
- ④ 「人的資源管理論 I」 二神 枝保教授
7月17日(木) 2限

・秋学期の講義名と担当者、実施日時(10回)

- ⑤ 「日本経済史」 邊 英治准教授
12月11日(木) 3限

- ⑥ 「簿記原理 II」 原 俊雄教授
12月12日(金) 3限
- ⑦ 「土木史と技術者倫理」 細田 暁准教授
12月16日(火) 3限
- ⑧ 「感覚知覚システム論」 岡嶋 克典准教授
12月16日(火) 3限
- ⑨ 「中等数学科教育法 C」 両角 達男准教授
12月16日(火) 4限
- ⑩ 「機械力学 I」 中野 健准教授
12月18日(木) 1限
- ⑪ 「英語実習 1LR」 渡辺 雅仁教授
12月24日(水) 2限
- ⑫ 「中国語実習 2a」 新沼 雅代准教授
1月27日(火) 2限
- ⑬ 「オーラル・コミュニケーション IIb」
タラ・キャノン准教授
1月29日(木) 2限
- ⑭ 「英語実習 1S」 ジョン・ハモンド講師
2月2日(月) 3限

ご多忙にもかかわらず、ご協力いただきました先生方に御礼申し上げます。

授業改善 WG 活動報告

今年度、本学は文部科学省の「大学教育再生加速プログラム」に採択された（取組事業名：「YNU学修成果の可視化—学士力と就業力の可視化による学生の主体的な学びのデザイン」）。本プログラムでは、全学的な教学マネジメントを強化し、学修成果の可視化を通じて教育内容・方法等の改善を図ることが事業の根幹となっている。本WGでは、その「教育内容・方法等の改善」に資するものとして、授業アンケートを活用することを確認し、より実効性のあるアンケートにすべく見直しを行った。

1) 「授業アンケートに関する教員アンケート」の実施

春学期は、本学常勤教員に対し、授業アンケートの見直しを目的とした現行の実施方法や質問内容を問う「授業アンケートに関する教員アンケート」を実施した。主に各学部の教授会の冒頭に用紙を配布し、終了後に回収するという方法で行い、205名からの回答を得た（回答率36.5%）。集計結果の報告は、第5回FD推進部会（9月29日開催）にて行った。

「現状、一部の専門教育科目を除くすべての科目に対してアンケートを実施している（ただし、履修者数が20名以下の場合のアンケート実施は任意）ことに対し、どう思うか？」という質問に対しては、回答者の約半数が「現行のままでよい」と答えていた一方で、「実施対象科目数を減らした方がよい」、「履修者数20名以下の科目ではアンケートを実施しない方がよい」、「毎年ではなくても、同一授業は2、3年毎に行うのでもよいのではないか」等といった実施方法について変更を求める声もほぼ同数に上った。

一方、現行のマークシート方式について尋ねた質問に対しては、「現行のままでよい」と回答したのが124名、「Web方式でもよい」と回答したのが68名と、マークシート方式での継続を望む声

が倍近くあった。

本アンケートでは、現行の授業アンケートの質問項目の中で役立っている項目と役立っていない項目についても尋ねたが、「この授業を選んだ動機は何ですか」という受講態度に関する質問項目以外はすべて、「役立っている」と回答した人が大半を占めた。

2) 「授業アンケートに関する学生とのランチミーティング」の実施

秋学期は、学生の視点から授業アンケートを見直すことを目的として、各学部から推薦された学生10名（教育2名、経済2名、経営3名、理工3名）とお昼ご飯を食べながら授業アンケートをテーマに意見交換を行った（平成27年1月24日）。本ミーティングでは、主に以下のことについてざっくばらんな意見が飛び交った：

- ・アンケートに適当に回答する学生が多い理由とその改善策について
- ・質問項目について
- ・記名制（学籍番号を記入すること）について
- ・Webでの実施について

3) WGによるアンケート見直し議論

春学期に実施した「教員アンケート」および秋学期に実施した「学生とのランチミーティング」の結果を踏まえ、本WGにて授業アンケートの見直し議論を行った。アンケート結果と成績評価を比較して自らの授業を振り返ることができるように、学籍番号記入欄の導入を検討したり、現行の質問項目を精査し、より授業改善に役立つ質問内容（表現）の変更や順番の入れ替え等の議論を行った。

この見直し内容については、3月に実施される各学部の教授会／代議員会にて提示し、意見を集約して次年度早々に新アンケートを確定し、春・秋学期に試行的に実施する予定である。

学生参加型FD活動報告

結成から4期目を迎えた本年度の教育改善学生FDグループ（以下、学生FDグループ）の活動は、下記の通りである：

1) 学生・教職員合同会議

月1回開催する学生・教職員合同会議は、春学期中に3回開催された。秋学期については、諸般の事情で開催が見送られた。春学期に開催された各会議での主な議題は下記の通り：

第32回（4/30）：オープンキャンパスについて／学生発案型授業について

第33回（6/4）：「ミニしゃべり場」の企画について／新シラバス“Reality”の企画案について

第34回（7/14）：FD合宿研修会への参加依頼／学生FDグループの現状について

2) オープンキャンパスでの「学生講義」

昨年度初めて実施し、好評を博した「学生講義」を今回も実施した。これは、高校生やその保護者を対象に、「大学での学び」について学生目線から講義するものである。開講した講義のテーマは「学部学科の選択」、「大学って、どんなところ？～教育人間科学部のススメ～」、「これからの教育の話しよう」であった。

3) 学生発案型授業の開講

学生発案型授業とは、「学生が自ら学びたい授業を企画提案し、担当教員と協働しながら創り上げていく授業」である。学生FDスタッフが企画運営者となり、春学期は教養教育科目として「大学生からの社会人基礎力」を、秋学期は同じく教養教育科目として「横浜学ー地域の再発見ー」を開講した（ただし、春学期については、学生FDスタッフ以外の学生が中心となり企画運営が行われた）。この学生発案型授業は、本学で初めて開講されたということのみならず、神奈川県内の大学でも初の試みということで、特に春学期の授業については、前年度の準備の段階から広報活動に力

を入れた。その結果、複数のメディアより問い合わせがあり、最終的に日経新聞と産経新聞に記事が掲載され、旺文社の雑誌『螢雪時代』6月号（対象：大学受験生、高校教師）にも記事が掲載された。また、4月23日（水）の第3回授業にNHK横浜放送局の取材が入り、翌日（24日）のNHK総合テレビ「おはよう日本」の中の関東甲信越ニュース（6時25分～、7時45分～の計2回）で約1分間放送された。更に、地元のケーブルテレビ・横浜ケーブルビジョン株式会社には、開講前の準備の段階から継続的に取材をしていただき、全8回にわたりドキュメンタリー番組として放送していただいた。地元の企業・相鉄ホールディングス株式会社からの多大なるご協力を得て行った春学期の本授業には、受講者調整を行った上で37名が履修した。

一方、秋学期の「横浜学」では、15回の授業のうち、8回の授業において横浜市職員（課長クラス）の方を講師としてお招きし、様々な角度から横浜市の現状と課題、そしてその課題解決のための取組みについて話を聞き、ディスカッションを行った。最終的に、受講者は個人もしくはグループ単位で横浜市に対する政策提案のプレゼンテーションを行ったが、そのプレゼンテーションを横浜市役所で行わせていただいた。本授業の履修者は10名であった。

4) イベントへの参加実績

「学内重点化競争的経費」より配分していただいた予算で以下のイベントに学生FDスタッフを派遣した：

■学生FD活動連絡会議・研修セミナー@東洋大学（6/7） 派遣者1名

■横浜国立大学FD合宿研修@マホロバ・マインズ三浦（8/29） 派遣者2名

■大学教育再生加速プログラム推進フォーラム@東急ベイホテル横浜（2/21、22） 派遣者2名

平成26年度FD推進部会開催記録

回数	開催日時	議題
第1回	平成26年4月25日(金) 9:00~9:40	報告事項：初任者教員研修について/TA研修会について/学生FDグループの活動について 審議事項：部会長代理の選出について/平成25年度事業報告について/平成26年度事業計画について/平成26年度FD推進部役割分担について/TA研修会について/春学期授業アンケートについて/FDニュースレターの発行について/平成26年度学内重点化競争的経費の申請について/公開授業について
第2回	平成26年5月27日(火) 10:30~11:35	報告事項：第2回TA研修会について/学生・教職員合同会議について 審議事項：FD推進部会委員の役割分担について/授業アンケートに関する教員アンケートについて/第28号FDニュースレターについて/公開授業について/FD合宿研修会について
第3回	平成26年6月27日(火) 9:00~10:00	報告事項：公開授業について/学生・教職員合同会議について/春学期授業アンケートについて 審議事項：平成26年度予算の見通しについて/など
第4回	平成26年7月24日(金) 9:20~10:20	報告事項：平成26年度FD関連経費について/学生・教職員合同会議について/公開授業について/第28号FDニュースレターについて 審議事項：FD合宿研修会について/FDニュースレターについて
第5回	平成26年9月29日(金) 9:20~10:20	報告事項：オープンキャンパス(学生企画)について/学生FDサミット(京都産業大学)について/FD合宿研修会について/FD関連経費について/ニュースレターについて 審議事項：授業アンケートについて/FDシンポジウムについて
第6回	平成26年10月29日(水) 14:40~15:40	報告事項：FDニュースレターについて/授業アンケートに関する教員アンケートについて 審議事項：公開授業について/FDシンポジウムについて
第7回	平成26年11月28日(金) 14:40~15:40	報告事項：FDシンポジウムについて/AP推進フォーラムについて 審議事項：公開授業記事について/ニュースレター発行方法変更について/予算執行について/次年度について
第8回	平成26年12月24日(水) 12:10~13:00	報告事項：公開授業について/ニュースレターについて 審議事項：授業アンケートについて/次年度に向けて
第9回	平成27年1月28日(水) 12:10~13:00	報告事項：授業アンケートランチミーティング実施報告/秋学期公開授業について/愛媛大学訪問調査/AP/FDニュースレターについて/AP推進フォーラム参加人数について 審議事項：AP/FDニュースレター第2号について/春学期・秋学期公開授業記事について/平成26年度活動報告発行計画案について/次年度に向けて
第10回	平成27年2月27日(金) 10:30~11:30	報告事項：平成27年活動報告書について/AP推進フォーラムについて 審議事項：初任教員研修会について/平成27年度TA研修会について/授業アンケートについて/次年度に向けて

平成26年度FD推進部会委員一覧

所 属	氏 名
環境情報研究院・教授 部門長・理工学部選出	上野 誠也
教育人間科学部・准教授 兼務教員	新谷 康浩
大学教育総合センター・講師 FD推進部専任教員	安野 舞子
教育人間科学部・教授 教育人間科学部選出	吉田 圭一郎
国際社会科学研究院・准教授 経済学部選出	加島 潤
国際社会科学研究院・教授 経営学部選出	山岡 徹
国際社会科学研究院・教授 国際社会科学府選出	内海 朋子
工学研究院・教授 工学研究院選出	浅見 真年
環境情報研究院・准教授 環境情報学府選出	和仁 良二
教育人間科学部・准教授 都市イノベーション研究院選出	須川 亜紀子
国際戦略推進機構・准教授 国際戦略推進機構選出	タラ・キャノン

横浜国立大学大学教育総合センターFD推進部 平成26年度活動報告書

発行：平成27年12月

編集：FD推進部広報担当ワーキンググループ

事務担当：学務・国際部教務課学務企画係（内線：3106）

※バックナンバーは大学教育総合センターホームページに掲載されています。

www.yec.ynu.ac.jp